

とき 歴史を 刻む ミュージアム

あした
～春草から 未来へ～

飯田 OIDE 長姫高等学校

福本雅広(協力: 塩澤崇夢・櫛原千廣)

■はじめに～空きビルに「デザイン画」を描く～

菱田春草没後 100 年となる 2011 年、春草の生誕地に記念公園を作ろうと、市民団体『春草生誕の地』整備を願う市民の会が発足。募金活動など行いながら市に働きかけ、2015 年に、「生家跡の看板」が立つだけだった場所が、『菱田春草生誕地公園』として整備された。

公園は完成したがトイレの設置については、維持管理が大変だということで見送られた。そこで、公園の東側に建つ空きビル(旧橋北食品ビル RC3 階建て)を橋北地区で借り受け、ビルの 1 階を「休憩所」「地域の集いの場」として改修し、トイレも設置することにした。

1 階は店舗として使われていたため、間仕切りのない空間(写真参照)となっている。壁面・天井が白色のペンキ仕上げとなっているため、ここに「デザイン画」を描こうということになる。そこで、日頃から地域の活動に協力してもらっている、OIDE 長姫高校の生徒にお願いしようということになり、建築学科に橋北地区から依頼がある。

私が「文化祭のアーチのデザイン」を担当したことから、「デザイン画」を考えることになる。

■壁面「デザイン画」のスタディー

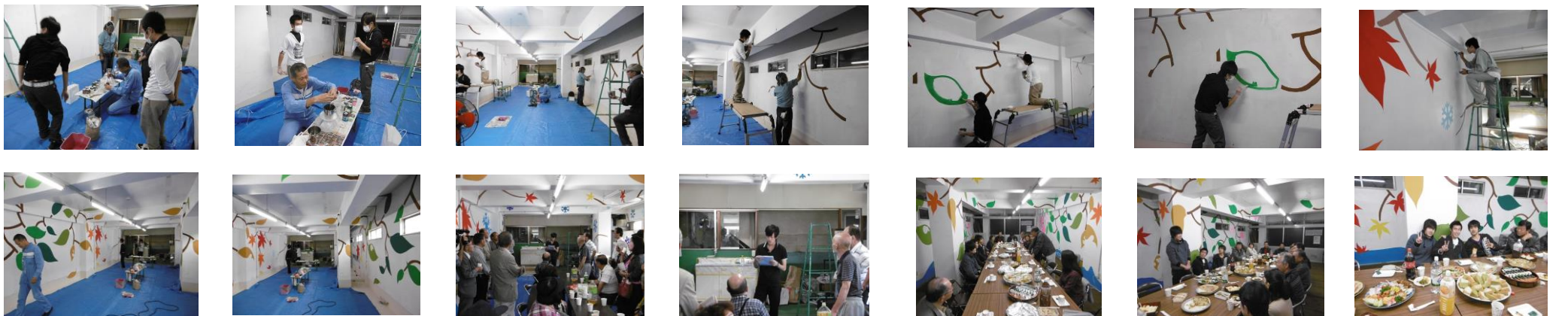
夏休みに、「デザイン画」を 12 案ほど作成する。現場での作業は、地元橋北地区の方々との「協働」を前提とするため、「描きやすい、シンプルなデザインを」との要望が出される。「春草公園」の隣でもあることから、最終的に、春草の「落ち葉」をモチーフとした春・夏・秋・冬の「四季」を描いた「デザイン画」を簡略化し、最終案として決定。



■最終案の「デザイン画」のコンセプト

春草の「落ち葉」をモチーフとした四季をデザイン。春:幼年期、夏:青年期、秋:壮年期、冬:老年期と、ここで暮らす「人の一生」、世代交代していく「地域の歴史」の意味も込める。そして、それぞれの世代が交流する「集いの場」にふさわしい、明るく、楽しいスペース となるような「壁画」とした。

■空きビルの壁に、橋北地区の方々との共同作業により、壁画「四季」を描く。



■作業開始から、約 1 か月かけ「四季」の壁画が完成。見学会でデザインコンセプトを地元の方々説明する。

■完成を祝っての「食事会」に招待される。心のこもった手料理が並ぶ。

■待望の壁画「四季」完成。「無機質な空間」が、「明るい空間」に生まれ変わる。



12 月、家具なども設置され、待望の「集いの場」が完成。完成を祝っての地区主催の「食事会」に招待される。心のこもった手料理が並び、懇談の中で、思っていた以上に、地区の方々に感謝され、学校の授業では体験できない、実際の建物の改修作業を、地域の方々との「協働」でき、大きな喜びを感じることが出来た。

この橋北地区も、「人口減少」・「高齢化」・「独居老人世帯」と、今の地方の抱える問題は例外ではない。しかし、行政に頼らずに「自分たちのまちは、自分たちで創っていく」という気概を持った人々の、「まちへの誇り」・「まちへの愛情」がある限り、「活性化の灯」が消えることはないだろう。



春草公園 パース
飯田市 HP より



空きビル(旧橋北食品ビル)・春草公園



▲ 改修前の空きビル 1 階内部



▲ 改修前の空きビル外観